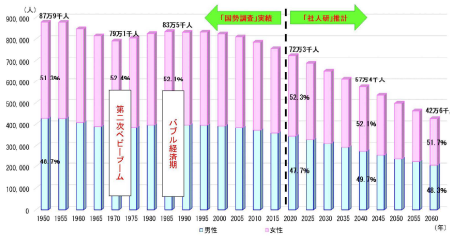


「とくしま人口ビジョン（2020年策定版）（案）」 （概要版）

◆ 徳島県における人口の現状

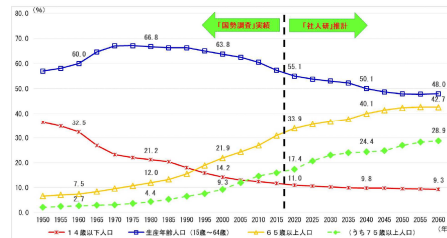
人口の推移

（「徳島県」における人口推移）



（出典）総務省「国勢調査」／国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年（2018年）推計）」

（「年齢階層別（4区分）」の人口推移）



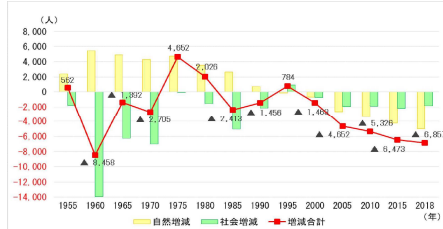
（国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」。）の推計

- ・「総人口」：2025年（令和7年）：70万人を下回る
2040年（令和22年）：60万人を下回る
2050年（令和32年）：50万人を下回る
2060年（令和42年）：約42万6千人

- ・「年少人口（14歳以下）」：2020年（11.0%）⇒2060年（9.3%）
- ・「生産年齢人口（15歳～64歳）」：2020年（55.1%）⇒2060年（48.0%）
- ・「65歳以上人口」：2020年（33.9%）⇒2060年（42.7%）
（「うち75歳以上」：2020年（17.4%）⇒2060年（28.9%））

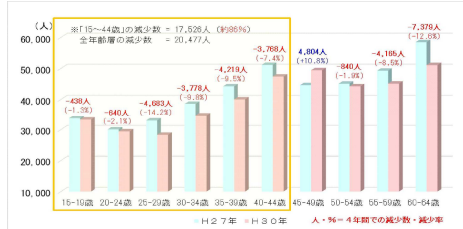
人口減少の現状

「自然動態」・「社会動態」・「人口減少」の推移



（出典）徳島県「人口移動調査結果報告書」

年齢階層別「人口減少」の状況



（直近4年間（2015年（H27）～2018年（H30））の平均）

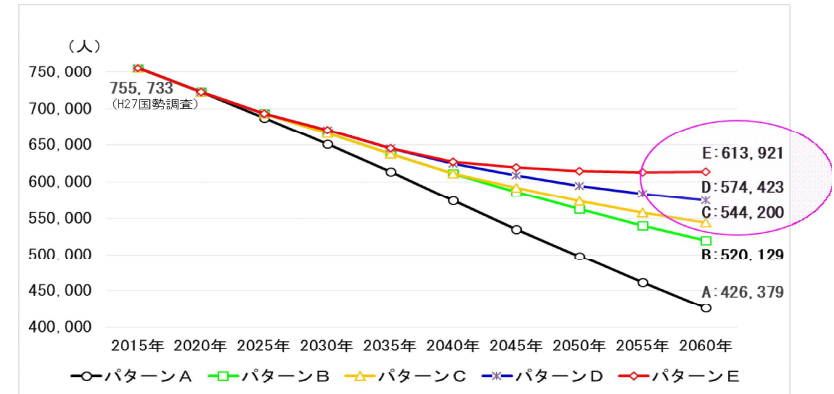
- 年平均約6,500人の減少（自然動態：約4,700人 社会動態：約1,800人）
- ・「15歳～44歳」人口を捉えると、減少数全体の約86%を占めている。
- ・年齢階層別では「25歳～29歳」の減少幅が最も高い（H27-H30比較：△14.2%）
- ・生産年齢人口では、「45歳～49歳」人口を除く「全ての年齢階層」で減少
- ・最も多い「転出先」は「近畿地方」であり、「大学進学先」でみても「大阪圏」が最多

◆ 人口の将来展望と目指すべき方向性

～「総人口の目標」～

★2060年に、「55万人～60万人超」の人口水準を確保！

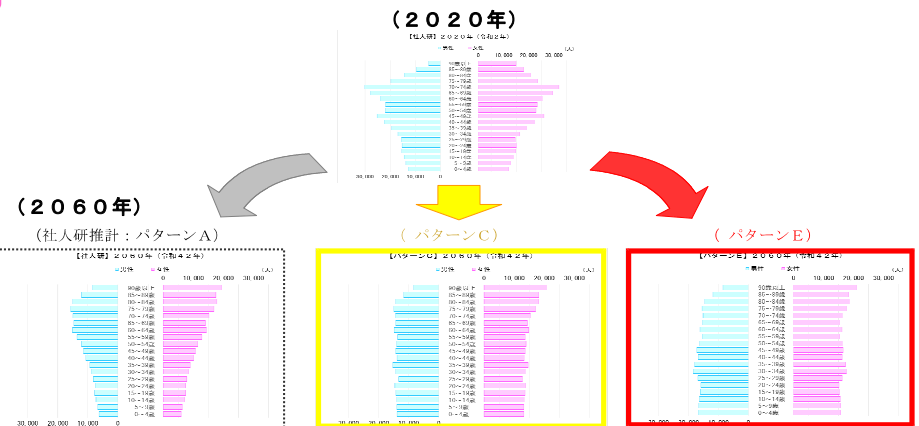
本県の「将来推計人口シミュレーション」



- パターンA： 国立社会保障・人口問題研究所の推計（H30年）に準拠
- パターンB： 合計特殊出生率が上昇（2025年以降：1.80、2040年以降：2.07）
転入数と転出数が均衡（2030年以降：均衡）
- パターンC： 合計特殊出生率が上昇（2025年以降：1.80、2040年以降：2.07）
転入数が転出数を上回る（2030年以降：均衡、2040年以降：1,000人超過／年）
- パターンD： 合計特殊出生率が上昇（2025年以降：1.80、2030年以降：2.07）
転入数が転出数を上回る（2030年以降：均衡、2035年以降：1,000人超過／年、2040年以降：1,500人超過／年）
- パターンE： 合計特殊出生率が上昇（2025年以降：1.80、2030年以降：2.07）
転入数が転出数を上回る（2030年以降：均衡、2035年以降：1,500人超過／年、2040年以降：3,000人超過／年）

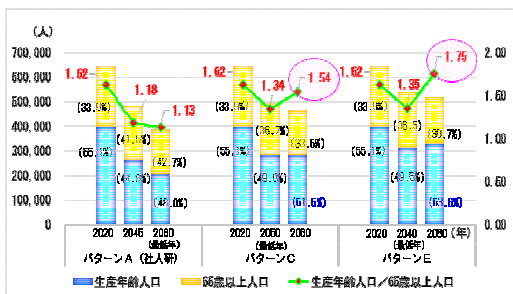
～「目指すべき方向性」～

★人口ピラミッドのプロポーションを意識した「持続可能な人口構造」を構築！



～「生産年齢人口」～

★「生産年齢人口（１５歳～６４歳）」の構成比率「５０％以上」を確保！

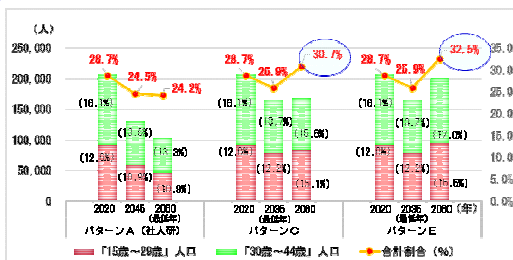


○「生産年齢人口（１５歳～６４歳）」の「１．５人」で「高齢者１人」を支える水準として、「生産年齢人口（１５歳～６４歳）」の構成比率「５０％以上」を目指す。

※「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」における「７０歳までの就業確保」を努力義務とする法改正（予定）や、国家公務員・地方公務員の定年延長が具体化しつつある社会情勢を踏まえ、「生産年齢人口」の定義等、当該目標のあり方については、今後を注視する。

～「１５歳～４４歳」人口～

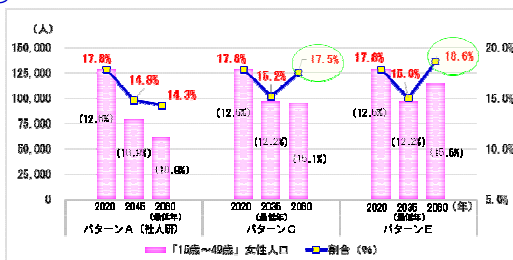
★若者を中心に、「１５歳～４４歳」人口の構成比率「３０％以上」を確保！



○「人口減少克服」の鍵を握る「高校生・大学生」を中心とした「１５歳～２４歳」人口への対策強化を図ることなどにより、人口減少数の「約８６％」を占める「１５歳～４４歳」人口を、現状の構成比率「２８．７％」を上回る「３０％以上」の確保を目指す。

～「１５歳～４９歳」女性人口～

★合計特殊出生率の算定基礎となる「１５歳～４９歳」女性人口の現状水準「１．７％台」を確保！



○若い年齢層を中心に減少が拡大している「女性人口」の確保は重要なウェイトを占めており、「合計特殊出生率」の算定基礎となる「１５歳～４９歳」までの「女性人口」を、現状水準と同等となる「１．７％台」の確保を目指す。

～「自然動態」の改善に向けた目標～

★２０２５年（令和７年）に、結婚や出産に関する希望がかなう場合の「出生率（希望出生率）１．８」を目指す！

※結婚や出産については、個人の考え方や価値観が尊重されることが大前提であり、この目標は個人に対するものではない。

「結婚・出産・子育て」を望み、安心して子どもを生み育てられる社会の構築に向けた「徳島県次世代育成支援行動計画」第２期徳島はぐくみプラン（後期計画）との整合性を図り、現行の人口ビジョンに引き続き、２０２５年（令和７年）の「出生率（希望出生率）１．８」を目指す。

◆目指すべき方向性◆

- 【「結婚～出産～子育て」のあらゆるステージを応援する社会の実現】
⇒ 子育てトータルサポートのさらなる充実
⇒ 高齢者も含め、地域で子育てを支え合うコミュニティの実現
- 【徳島発！多様な「働き方改革」の実装】
⇒ 「Society 5.0」を実現する未来技術を活用した「長時間労働の是正」や「ワーク・ライフ・バランス」の確立など、安心して子育てできる環境の整備
- 【アクティブシニアをはじめ、全ての人々が健康で活躍できる社会の構築】
⇒ 全国トップクラスの「健康寿命県」の実現
⇒ 高齢者、障がい者、外国人など、多様な人材の活躍

～「社会動態」の改善に向けた目標～

★２０３０年（令和１２年）までに、「転入・転出者数の均衡（社会増減ゼロ）」を目指す！

※目標達成を図る上で、５年後の２０２４年度（令和６年度）実績において、「転出超過数１，０００人」を下回る水準を目指す！

「６５歳以上・７５歳以上」人口がピークアウトし、５年単位での「人口減少率が５％以上」に拡大する「減少加速時代」が到来する２０３０年（令和１２年）までに、「転入転出者数の均衡」を実現。

◆目指すべき方向性◆

- 【社会減の主要因である若者の「とくしま回帰」加速】
⇒ 県内高校、高等教育機関卒業後の「県内定着率」向上を推進
⇒ 県外進学した大学生など「２０歳～２４歳」の若者への対策強化
⇒ 魅力的な就労・生活環境の発信など、「女性へのアプローチ・女性目線」の対策強化
- ⇒ 「東京圏」に加え、「大阪圏」等も対象にした対策強化

「vs東京『とくしま回帰』総合戦略～未知の世界への挑戦～(案)」 (概要版)

◆ 基本姿勢

(1) 「総合戦略」の位置づけ

「とくしま人口ビジョン」で新たに描いた将来展望の実現に向けた2020年度（令和2年度）から5か年（2020年度～2024年度）の人口減少の克服と持続可能な地域づくりのための施策の方向性を位置づける計画

(2) 「総合戦略」の推進方針

① 「横断的・重点的」取組み

○SDGsの取組み推進

「エシカル消費」や「気候変動対策」をはじめ、経済・社会・環境を巡る広範囲な課題解決に向けた「SDGs」の理念に沿った取組みを推進し、「総合戦略」のあらゆる施策・事業の実施に当たり「SDGs」を原動力として「地方創生」を推進するとともに、「SDGs徳島モデル」を全国・世界に発信することにより、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある地域社会の実現を目指す。

○Society5.0の実現

全国屈指の「光ブロードバンド環境」といった優位性を最大限に活かしつつ、「5G」などの情報通信基盤の整備、「未来技術」を地域課題の解決に実装可能な「デジタル人材」の育成・確保、さらには、ビッグデータ・オープンデータの活用基盤の整備など、「Society5.0」実現に向けた環境整備を進めるとともに、「地方創生」の取組み全般にわたり、あらゆる分野における技術実装の実現に向けた取組みを推進することとし、新時代にふさわしいスマート農業や教育環境の実現、地域医療の確保など、未来技術を活用した地域課題の解決を強力に推進する。

○地方創生の基盤をなす人材の育成

小学校・中学校・高等学校での学校教育や、地域活動を通じた社会教育等の中で、地域産業、歴史・文化、豊かな自然環境など、地域の魅力を知り、体感し、理解を深める「ふるさと教育」等の実施により、地域に「誇りと愛着」を持つ人材を育成する。

○若者、女性、大阪圏への「効果的・戦略的」対策強化

若者に選んでもらえる「魅力あるしごと」や「就業機会」の創出を図るとともに、女性の視点に立った「職場環境づくり」や「子育て支援」など、若者・女性に焦点を当てた取組みの強化、本県からの転出が最も多い大阪圏へのアプローチの強化を図る。
本県の企業・就職情報をはじめ、全国屈指の子育て環境や暮らしやすい生活環境、さらには、観光・イベント情報、歴史・文化など、ターゲットを明確にした魅力的な情報発信を行う。

②県を挙げた「総合戦略」の取組み

- 挙県一致体制での推進
- 多様な人材からの意見聴取・意見反映
- 県民総ぐるみの機運醸成

(3) 「市町村版総合戦略」への支援

(4) 検証と改善（「PDCAサイクル」の構築）

◆ 基本目標

「4つの基本目標」を掲げ、Society5.0時代の「ひと」と「しごと」の好循環を創出し、**全世代の人々が輝く「持続可能な社会」を実現**

【基本目標1】

「未来を担うひとの流れ」づくり

目標 転入・転出者数：2030年均衡へ
～2024年度時点に1,000人を下回る水準～

- (ア) 「住みがい・つながり」を実現！「とくしま回帰」の推進
- ① ターゲットごとの戦略的・移住交流の推進
 - ② 新たな地域の担い手「徳島ファン」の創出・拡大
 - ③ 未来の地域を支える「産業人材回帰」の推進
 - ④ 魅力発信「選ばれとくしま」の実現
- (イ) 次代の地方創生を担う人材の育成
- ① 誇りと愛着を育む「人材育成プログラム」の展開
 - ② 地域資源を活かした「課題解決人材」の育成
- (ウ) 「とくしま回帰」を呼び込む拠点の更なる確保
- ① 企業の本社機能の誘致
 - ② 政府関係機関・新拠点の機能充実・規模拡大
 - ③ 新たなイノベーションの創出拠点づくり

【基本目標2】

地域を支える「魅力的なしごと」づくり

目標 雇用創出数：5年間で5,000人

- (ア) 未来につながる「地域産業」の実装
- ① 世界に通じる地域イノベーションの創出
 - ② 企業の成長ステージに寄り添った切れ目のない支援
- (イ) 世界に誇る「とくしまブランド」の強力展開
- ① 農林水産業の成長産業化
 - ② 海外から稼ぐ「とくしまブランド」の強化
- (ウ) 好機をとらえた観光誘客の更なる推進
- ① 「訪日外国人6,000万人時代」攻めのインバウンド誘客
 - ② 新たな「誘客コンテンツ」の開拓
 - ③ 「文化・スポーツ」の磨き上げによる「にぎわい」創出
- (エ) 未来を切り拓く「ひと」づくり
- ① 未来の「とくしま」を創造する人材の育成
 - ② 未来につなげる人材の育成

好循環

【基本目標3】

結婚・出産・子育て「希望がかなう環境」づくり

目標 希望出生率：1.8（2025年）

- (ア) 多様な希望をかなえる「きめ細やか」で「切れ目のない」支援
- ① 出逢いを応援！「結婚支援プロジェクト」の加速
 - ② 不安・悩みを解消「子育てトータルサポート」の強力展開
 - ③ 多世代で地域を支える「子育て社会」の実現
- (イ) 多様な希望に寄り添った「子育て環境」の実現
- ① 「多様な働き方」好循環とくしまモデルの実装
 - ② 「子育て」を応援する職場環境づくり
- (ウ) きめ細やかに手をさしのべる社会の実現
- ① 困難を抱える子ども達への支援
 - ② ひとに寄り添い・支える体制づくり

【基本目標4】

安全・安心「持続可能な社会」づくり

目標 Society5.0の実装に向けた取組件数
：5年間で25事例

- (ア) 「Society5.0」の実装
- ① 未来技術活用「徳島モデル」の創出
 - ② 未来技術活用「徳島経済」の飛躍
- (イ) 「SDGs徳島モデル」循環とくしま・持続社会の実装
- ① 「つくる責任つかう責任」エシカル消費の更なる普及拡大
 - ② 「脱炭素社会」の実現
 - ③ 「未来エネルギー」の実装
 - ④ 自然との共生「生物多様性とくしま」の展開
- (ウ) 全世代・全員活躍「ダイバシティとくしま」の実現
- ① 「男女共同参画立県とくしま」の飛躍
 - ② 人生100年時代「健康寿命先進県」の実現
 - ③ 障がい者の自立と社会参加の促進
 - ④ 外国人が「暮らしやすい・活躍できる」社会の実現
- (エ) 安全・安心を実感！「皆が笑顔で暮らせる」社会づくり
- ① 健康で自分らしい生活がおくれる暮らしの充実
 - ② 世界へ発信！消費者の「安全・安心」を守る社会の実現
 - ③ 課題解決をリードする先進地域づくり
- (オ) 地方創生の礎「強靱とくしま」の実現
- ① 未知なる災害を迎え撃つ「事前復興」の推進
 - ② 強さとしなやかさを備えた「県土づくり」の推進

SDGsの取組み推進や
Society5.0の実現
などにより、
直面する地域課題を解決！

地方創生の礎となる
安全・安心「県土強靱化」
を新たな柱に！

【基本目標1】「未来を担うひとの流れ」づくり

「20歳～24歳」の若者への対策をはじめ、魅力的な就労・生活環境の発信など、女性目線でのアプローチ、さらには、東京圏に加え、本県からの進学・転出者数の多い「大阪圏等」を対象にした施策の強化を図り、さらなる「とくしま回帰」を推進

- 「若者」「女性目線」「大阪圏」の視点での取組みを充実・強化し、「情報発信」→「移住相談」→「魅力実感」→「移住実現」の各ステージにおける移住支援施策の“切れ目のないサポート”を展開

■移住者数(累計)：('18)1,402人→('24)1,900人
 ■「とくしま若者回帰アンサダー」委嘱者数(累計)：('18)→('24)120人



大阪圏への戦略的情報発信

- 「徳島ファン」を掘り起こし、多様な人材のスキルと、市町村が有する課題とのマッチングを図るための多様な取組みを展開

■関係案内所での交流イベント参加者数(累計)：('18)→('24)250人
 ■「徳島ファンバンク」へのファン登録者数(累計)：('18)→('24)60人



徳島ファンエクスカージョン

- 「ふるさと」のよさや強みを伝えるとともに、子どもたちのキャリアプランニング能力を高め、持続可能な地域社会の創り手育成につながるキャリア教育等により「ふるさと徳島」への誇りを培う取組みを推進

■高校におけるインターンシップの実施率：('18)97.6%→('24)100%
 ■あわっ子文化大使・高校生サポーターの活動参加人数：('18)130人→('24)130人



キャリア教育の様子

【基本目標2】地域を支える「魅力的なしごと」づくり

「徳島の強み」と「未来技術」を最大限に活用し、「地域の稼ぐ力」を高めるとともに、やりがいを感じることができる「魅力的なしごと」と「雇用機会」を創出し、「住みたい・働きたい」と思える地域社会を実現

- 地方大学・地域産業創生事業により、次世代LED等を活用した新製品を開発し、県内の光関連産業の活性化を図ることで雇用創出を推進

■光関連産業の雇用創出数(※)(累計)：('17)11,200人→('24)14,600人
 ※工業統計調査(経済産業省)による従業者数



ポストLEDフォトニクス研究所

- 工業技術センターに5G技術活用支援拠点、中央テクノスクールに5Gエンジニア育成拠点をそれぞれ開設するなど、Society5.0の実現に向けて、全国に先駆け「ローカル5G環境」を整備

■5G技術活用支援拠点による新技術・製品開発の支援：('20)開設



スマートファクトリー(出典:総務省)

- 東アジアを重点地域として、チャーター便や定期便の誘致による観光誘客に取り組むとともに、世界にはばたく「とくしまブランド」の確立を目指し、県産農林水産物等の輸出を拡大

■県内への外国人延べ宿泊者数：('18)116,230人→('24)202,000人
 ■農林水産物等輸出金額：('18)12.9億円→('24)24億円



県産農産物の海外展開

【基本目標3】結婚・出産・子育て「希望がかなう環境」づくり

「結婚～出産～子育て」のあらゆるステージを応援する社会や、高齢者も含めた地域で子育てを支え合うコミュニティの構築をはじめ、多様化する価値観に応じたライフスタイル・ワークスタイルの確立など、「子育ての喜びを実感できる環境」「安心して子育てができる環境」を構築

- 「徳島県次世代はぐくみ未来創造基金」を設置し、徳島県の未来を創造する次世代の人材に向け、県民の結婚、妊娠・出産、子育てを支援する取組みを推進

■男女の出逢いの場等におけるカップル成立数(累計)：('18)755組→('24)2,600組

■待機児童の解消：('18)33人→('24)0人 など

- 仕事と子育てを両立できる職場環境の整備に向け、周りの人や子育て支援サービス、ツールなど保護者を取り巻く周囲に頼りながら楽しめを感じつつ行う育児(チーム育児)を普及推進

■チーム育児応援企業数(累計)：('18)→('24)50社(事業所)

- 意欲のある高齢者の人材育成を行うとともに、保育現場への就労を支援する「県版『保育助手』制度」を推進し、アクティブ・シニアの保育現場での就業を支援

■支援制度を活用した「保育助手」雇用施設数(累計)：('18)→('24)70施設



マリッサとくしま



チーム育児(イメージ)



保育現場(イメージ)

【基本目標4】安全・安心「持続可能な社会」づくり

Society5.0の実装による地域課題の解決や新たな取組みの積極的展開を図るとともに、県民の健康維持、県土強靱化という「地方創生」基盤の確立により、安全・安心に暮らすことができる地域社会を創造

- 市町村が実施する、未来技術を活用し住民生活の利便性向上や地域の課題解決を図るプロジェクトを支援することにより、徳島県におけるSociety5.0実装モデルを構築

■Society5.0リードエリア数(累計)：('18)→('24)3エリア

- アクティブシニアが主役となる「フレイルサポーター」を養成し、主体的にお互いの健康状態を確認し合う、県民総ぐるみによる「フレイル予防作戦」を展開。また、アクティブシニアがコミュニティの中核を担い、集落の活力維持のために積極的に取り組む地域を「アクティブシニア集落」として認定し、アクティブシニアの活躍を推進

■フレイルサポーター数：('18)→('24)300人
 ■過疎地域等における「アクティブシニア集落」の認定数(累計)：('18)→('24)10集落

- 近畿及び四国内の交流基盤となる四国横断自動車道(徳島JCT～阿南間)の整備を促進

■四国横断自動車道(徳島JCT～徳島東間)の整備：('21)供用
 ■四国横断自動車道(徳島東～阿南間)の整備：('20)徳島東～津田間の供用



Society5.0イメージ(出典:内閣府)



フレイルサポーター養成



徳島JCT完成予想図